

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173200856		
法人名	株式会社ライフータルサービス		
事業所名	ライフタウン愛里		
所在地	埼玉県比企郡小川町小川715-2		
自己評価作成日	令和3年2月9日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の残存能力を生かし出来る事は何でもやって頂きます。又、日々充実して頂くように気分転換にドライブや散歩、季節に応じて畑作業などを利用者様と共に協力してやっています。又、月々のイベント行事やレクリエーション、学習療法など生活に取り入れています。利用者様と職員間の関係はとても良く、共に助け合いながら生活を送っています。※現在はコロナウイルス感染防止の為、外出や行事などはできる限りで自粛しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域のふれあいの場であった「とよ屋」の運営が、コロナ禍により難しくなったが、とよ屋のスタッフがボランティアとして利用者の話し相手や一緒に活動を行うなどサポートをされ、日々の生活を支えられている。また、学習療法を取り入れたことで、認知症進行防止効果や利用者同士の関係性が向上するなど、よい結果がもたらされている。
 ・運営推進会議では、災害対策や公文学習療法、重度な認知症高齢者への取り組み方法など話し合われていたが現在は休止となっており、コロナ禍における開催方法について検討されている。
 ・目標達成計画については、煙体験がコロナ禍から行えなかったが、今後は避難訓練を周知せず、いきなり行ってみたいと新たな取り組みを検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とよ屋という認知症カフェを作り入居者と地域の住民、子供が集まる場として利用者の仕事や生きがいにもつなげている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、休止。	利用者が目標や希望を持ち、楽しいと思える暮らしが継続できるように、心の健康の充実に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民、ボランティアさんがホーム内の掃除、デイサービスを利用する利用者様の娯楽麻雀の相手として協力して頂き支えられている。	ふれあいの場であった駄菓子屋「とよ屋」がコロナ禍から利用できなくなったが、新たに、高齢者や子供たちが世代を超えて交流ができる居場所を作りたいと取り組みを始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方が集まるサロンで認知症の勉強会を行う時のお手伝いをする。※現在はコロナウイルス感染防止の為、休止。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて民生委員さん達が、ボランティアでお掃除などをしてくださる事になりました。※現在はコロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は休止。	運営推進会議は、町職員や病院関係者、地域や家族の代表者が参加し開催され、災害対策や公文学習療法、重度な認知症高齢者への取り組み方法など話し合われていたが、現在はコロナ禍から休止となっている。	コロナ禍における運営推進会議をどのように開催したらいいのかを課題とされています。参加者から意見・要望を聴取される方法を検討し、いただいた意見が事業所運営に役立てられることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員さんとは、傾聴ボランティアさんの紹介などを通じて協力関係を築いている。	管理者は町主催の「おがわ支えあいネット」のメンバーで高齢者が集うサロンの立ち上げに協力をされている。また、町からは動画や感染症対策のグッズ、研修案内などの通知をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は行っていない。倫理委員会を中心に一年に一回は勉強会を開催して、身体拘束ゼロをめざす努力をしているが胃ろうの利用者様はチューブを外す危険があり、現在は御家族同意の元、胃ろう中は状況に応じて介護服を着用している。拘束時間の記録もしている。	離席や立ち上がりとする利用者には職員が付き添い安全確保に努められている。また、転落事故等について、身体拘束適正化委員会で説明・報告が行われ、事故を未然に防いでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	倫理委員会を中心に一年に一回は勉強会を開催している為、虐待の防止については職員も理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度、現任研修で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明はチェックシートを作成して説明漏れを防ぎ、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の閲覧はいつでも出来るようになっていた。又、意見箱を設置している。意見が入っていた時は、月例会議などで取り上げる。	利用者の話は傾聴し、不安を持たれないように、わからないことは丁寧に説明がなされている。現在、家族の面会が制限されているが、玄関先やラインで会話ができるだけでありがたいと感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで十分な意見交換、申し送りを行い、決定事項は通達書に記入。理解できた時にはサインをして情報共有を図るようにしている。	学習療法で新たな取り組みを実践されたところ、利用者の笑顔が多くなり、職員も介護がやりやすくなるなど成果が表れている。また、管理者は気分転換が図れるように、ストレス対応にも配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力給を検討。シフトに協力的な職員や病欠で急なシフト変更に応じてくれた職員には報酬を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	複数事業所連携会議に参加して、他施設の職員との交流をはかっている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、休止。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携研修に参加したり、他のグループホームの入居者様が慰問に訪れたりしながら交流をはかっている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、休止。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人が不安に思っている事をお話して頂き、安心してここでの生活がスタートできるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のお気持ちを大切に、心配な事があれば、何度でも話し合う時間を作り、御要望があれば、それにお答えできるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスも含め、本人に必要なと思われるサービスの内容を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たくさんの経験、体験をされてきた利用者様の人生や思い出に耳を傾け、生活していく上でのお手伝いをさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族に来ていただき、御自由に過ごしてもらい、家族と密に連絡をとりあいながら情報交換をし、協力して、本人が安心して生活できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、御友人に会いに行ったり、電話をかけた、来訪していただくなどしている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、外出は自粛している。	昔のビデオや音楽を楽しまれたり、携帯電話で知人と話をされるなど、コロナ禍ではあるが、馴染みの方との交流が図れるように取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く過ごせるように職員が仲に入り、会話を広げる。一人である方があれば、一緒に過ごせるように進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	命日には、お線香をあげに行ったり、年賀状のやり取りをしたりしている。又、退去して自宅に帰った利用者が愛里に来園する機会をつくったり、訪問サービスなどの支援もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの時間をつくっている。又、ドライブ、買い物、散歩等、御本人の意思が尊重できるようにしている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、できる限りで外出は自粛している。	職員は利用者に積極的に話かけ、ポロっと話した言葉や質問形式のリスト、日頃の様子から思いを推測されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の利用者様の生活歴を把握できるように、御本人の他、御家族様などからも情報を聴き、新しいプラン作りに反映させる努力をしている。趣味などは継続して出来る事はやっていたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を生かしたお手伝いをして頂けるようにお手伝いの種類の選択を慎重にする。調理、掃除等も出来る方にはやっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の会議や月例会議で利用者様の現状について話し合い、介護計画としてケアプランに反映している。又、御家族様とはケアプランの内容について意見交換を行うが、場合によっては書面にて行っている。意見を参考にプランの作成、変更することもある。	質問形式のリストから利用者の思いを推測し、利用者が心地よいと感じていただける取り組み方法や課題解決に向けた具体的な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、見やすく、解りやすく、書きやすい様式を試行錯誤のすえ、完成した用紙を使用して申し送り時に役立てて。一日の様子がすぐに解るようになっている。記録する事の大切さを認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて良いと思う事は、とりあえず取り入れてみる。学習療法を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の廃品回収や牛乳パックの解体など協力出来る事をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小川赤十字病院、宏仁会病院の医師と家族の橋渡しができるように心掛け、御家族の言いにくい事など代弁できるように心掛けている。	協力病院を通じて安心できる医療体制が整えられている。訪問診療や薬の調整で、「24時間体制で見守っていただきありがたい」と家族から感謝の言葉が寄せられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	宏仁会病院にかかりつけている利用者様は月1回の往診を受けている。救急の場合も日赤病院や宏仁会病院にお願い出来る体制はできている。又、毎週水曜日に訪問看護が来園してくれるようになりました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時は御家族の負担を軽減できるように出来るだけホーム内で準備をする。主治医との話し合いにも参加して、情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	それぞれの考え方による理想的な終末期について話し合いをする。ホームで出来る限りの事を行っている。	初めての看取り経験の際、うまくいった事例として県で発表をされている。支援チームで連携し、職員のストレスケアや他利用者への配慮などから、こうしてもらえたら安心と周囲の方々からの声が聞かれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時などには消防署職員を施設に呼んでAEDや心配蘇生のやり方など時間が勝負になる事についての訓練をしている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、消防職員の派遣は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防との関係は大変密であり訓練もしている。又、毎朝避難誘導の担当を磁石ボードで変更対応している。	様々な場面を想定した避難訓練が実施され、被災した場合の受け入れる、受け入れてもらうためのネットワーク構築も整備されている。煙体験を実施したいと検討をされていたが、コロナ禍から実現には至っていない。	運営推進会議で災害対策について報告が行われています。今後は前もって報告をせず、いきなり避難訓練実施を実施され、新たな課題を見つけられることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁対応時や入浴介助時など自尊心を傷つけない声かけを行い、安全に配慮しながらも個人の時間も大切に過ごしている。	利用者には気持ちいい、暮らしやすいと思っただけのように本人のペースを大切に対応されている。プライバシーにも配慮され、誇りを損なわないように対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様の性格への理解を深め、希望を表し出しやすい雰囲気づくりを工夫したり、御本人の意思を尊重した支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決まっているが、自由な時間については、臨機応変に対応して利用者様の意向やペースに合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を依頼してカット、カラー、パーマなど御本人の希望を聞いて実地している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け、トレーや箸並べ、食後の洗い物などその人の能力に合ったお手伝いをお願いしている。	盛り付けを手伝っていただいているが、月1~2回、生寿司を楽しまれたり、手打ちうどんが得意な利用者には力を発揮していただき、透析の方へは血液検査を踏まえた食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高血圧の方の減塩や心臓病の方の水分摂取量など、一人ひとりの食に関する情報を一覧にして、食形態等についてもその方に合ったものになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方のポリドント洗浄や就寝前の口腔ケアを行い、週に一回は訪問歯科診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導の利用者様の行動、しぐさによる尿意、便意を把握してトイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。	自力排尿が難しかった利用者も、的確な誘導で排泄が行えるようになったり、職員複数で対応されるなど、一人一人に適した方法で排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション時の体操、ホーム内の廊下を歩行したり、外の散歩など身体を動かすなど心掛けている。又、牛乳やヨーグルト、さつま芋などをおやつ時に摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後に分けた入浴。一人で入浴を希望する利用者様などは見守りして、長湯の希望者も可能な範囲で対応している。	訪問入浴を利用されている利用者やシャワー浴など、個々の身体状態に応じた支援で入浴が実施されている。職員と会話をしながらゆつくりと入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝など自由にできるようにホーム内にはいたる場所にソファやベッドが置いてあり、自由に足を伸ばせるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合った服薬支援一覧表が用意されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の要望などではできる限りで対応している。各自で得意な事はお願いで手伝ってもらい自信とやりがいを持ち続けられるように日々職員と一緒に楽しみながら協力してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	担当職員を決めて外出希望者の外出時間をつくっている。又、月に一回は外出が可能な利用者様に限り、全体で車で出かけられるように心掛けている。※現在はコロナウイルス感染防止の為、できる限りで外出は自粛している。	日光浴や外気浴は実践されているものの、コロナ禍により、現在外出は自粛されているが、機能訓練士が訪問し、リハビリ体操やラジオ体操など個々に応じた運動が実践され、下肢筋力維持に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現実的にお金の所持がトラブルの原因になるケースが多く、お金を使う支援は難しいが、管理が出来る人は所持して買い物に行っている。 ※現在はコロナウイルス感染防止の為、できる限りで外出は自粛している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと要望がある場合は、その都度対応している。又、かかってきた電話もその都度とりついで対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	排気口や換気扇、エアコンなどの空気の流れ路の清掃に最善をつくしている。各居室には温度計と湿度計を設置。湿度は50%プラスマイナス10%。温度は20℃から26℃。照明は100から200ルクスを目安にしている。	吹き抜けで広々とした明るい共用空間で、温度や湿度も快適に整えられている。季節感のある装飾品が飾られ、生活感のあるリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などにもソファーやベットがあり、くつろぐ事が出来るようになっている。又、暖かい日は庭に出て話ができる場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具などを使用していたが、入居前に近い空間の中で生活できるように支援。	自宅で使用されていた家具などが持ち込まれ、自分の部屋として誇れる居室が作られている。掃除も行き届き、落ち着いて過ごせるように支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで中庭もある為、ホーム内は自由に行動できる。職員が見守りしながら自由行動をしてもらっている。		

(別紙4(2))

事業所名:ライフトータルサービス ライフタウン愛里

目標達成計画

作成日: 令和 3年 4月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍における運営推進会議。	Zoomは難しいかと思うため文章にての対応。	文章を出して行く。	6ヶ月
2	35	コロナ禍における避難訓練。	周知せず、いきなり行なう。	スタッフにも周知せず、いきなり行なう。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。